

今週のメニュー

■トピックス

◇グリーン購入ネットワーク(GPN)ガイドラインが「塩ビ」の情報提供を削除

■随想

◇モザンビーク共和国旅行記（5）－警察－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇グリーン購入ネットワーク(GPN)ガイドラインが「塩ビ」の情報提供を削除

グリーン購入の判断基準となる GPN ガイドラインには、これまで、焼却時ダイオキシン生成が増加するとの誤解に基づき、塩ビを使用している場合はその表示を求める規定がありました。GPN の 2 月の理事会において、その削除が決まりました。塩ビを情報提供項目としている GPN ガイドラインは、オフィス機器、家電、文具他多岐にわたり、古いものは 1996 年に制定されていますが、これらすべてにおいて同項目が削除されます。

塩ビは、他の汎用樹脂と比して、省石油型の素材であり長寿命で、しかもマテリアル・リサイクル性能が高いという優れた環境性能を有しています。例えば、2011 年、2012 年と続けて、塩ビの床材でその製造企業がエコマークアワードを受賞したのもこの長が活かされたことによります。にも関わらず、ダイオキシンの原因との誤解は長らく続いていました。

そもそも、ダイオキシン生成量は焼却物中の塩素量に比例しません。塩素は、厨芥ゴミ中の食塩、紙製品中の漂白剤等、様々な形で存在し、塩ビの割合は限られています。空気中にも微量ながら塩素があるため、何を焼却させてもダイオキシンを生成する可能性はありますが、焼却の条件を管理することでその発生を激減させることが可能です。実際に、焼却施設からの排出量は 1997 年に比して 2011 年は 1/100 程度にまで下がっています。プラスチックゴミ処理を埋め立てから焼却へと方針変更したことに伴い炉内の塩素濃度が増えた後でも、東京都の焼却施設から排出されるダイオキシンの量は減り続けています。

今後、企業、自治体において、この決定を反映してグリーン調達方針が速やかに改定され、塩ビの環境性能を積極的に評価した調達・購入が進むことを期待しております。

塩ビを情報提供項目としている購入ガイドライン一覧 (<http://www.gpn.jp/guideline/>)

コピー機・プリンタ・ファクシミリ	洗濯機	テレビ
パソコン	照明	トイレ設備
冷蔵庫	エアコン	
文具・事務用品	家具	

塩ビの情報提供を削除することをアナウンスした GPN のリンク
<http://www.gpn.jp/archives/gpnnews/archive/2014/02/000682.php>

■ 随想

◇モザンビーク共和国旅行記（5）－警察－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

急速な経済発展を遂げるモザンビーク。貧富の差も広がり、治安の悪化が大きな問題となっています。

分かりやすいのが腕時計。街を歩いている人で腕時計をして歩いている人はほぼ皆無です。腕時計は結婚式やパーティーなどの会場で身に着けるものであり、普段着けるものではありません。日本のように腕時計をしたままで街を歩いていると、ほぼ確実に奪われるのだとか。

街を歩くと、個人商店を含め、ほとんどのお店や事務所に小銃を肩から下げたセキュリティ（ガードマン）がいます。住宅街でも、ちょっと高級そうな家やマンションには武装したセキュリティが門番として配備されています。町中がセキュリティだらけと言ってもおかしくはありません。

また、敷地の境界線の塀の上には、鉄条網だけでなく、高圧の電気が流れた鉄線を張り巡らせたものが普通です。マンションのベランダなども日本のようにオープンになっておらず、鉄格子が嵌められているものがほとんどです。



先日、街を歩いていると、車上狙いらしい泥棒がオーナーらしき人に捕まっていました。泥棒は身長180センチほどの大柄な若者。オーナーも同じくらいの体格のネクタイを締めたサラリーマン風の若者でしたが、逃げようとする泥棒を蹴り上げ、腕をねじ上げてつかまえていました。泥棒も逃げようと必死。オーナーに飛び蹴りをくらわすなど、格闘技の試合のような状況でした。アフリカの人の中でも、モザンビークの人はとても大人しいと思っていましたが、別の側面を見たような気がします。

そのうち、オーナーに加勢する人も出て、泥棒は捕まりましたが、パトカーなどは来ません。オーナーは捕まえた泥棒を引きずり、警察官探し。日本のように、交番や警察署があちらこちらにあるわけでもなく、地元の人に聞くと泥棒ごときではパトカーが来ることはないとのことでした。この時は、5分ほど泥棒を引きずり歩いていたところ、たまたまパトカーが通りかかり、逮捕となりました（泥棒を捕まえる時から、逮捕されるまで、後について見ているなどという突っ込みはなしです（^_^））。

後ろ手に手錠をかけられてもパトカーに乗ろうとしない泥棒のお尻を何度も蹴り上げている警察官。そのうち、堪忍袋の緒が切れたのか、車のタイヤを交換する時に使う金属製のタイヤレンチを持出し殴り始め、泥棒はやっとパトカーに乗りました。

人権の違いもあるでしょうが、あそこまで殴りつける警察官と、それに抵抗をする泥棒もすごかった。

このように、警察もそれなりに仕事はしていますが、モザンビークの人に聞くと、総じて評判はよくありません。

政府高官や袖の下をもらっている高所得者のためにしか働かない。

だから、セキュリティを雇って自衛するしかない。

しかし、セキュリティも高齢の人も多く、何かあったら本当に役に立つのだろうかと思える人も多くいます。また、セキュリティはあくまでその店やマンションに雇われたのであって、店の前などで通行人が犯罪の被害にあっても、当然のことながらお金を払っていないので助けてはくれません。

では、私のような旅行者が犯罪被害にあったらどうするのか？

ナント、外国人被害者専用の受付があるのです。

それが「第4警察署 外国人担当」(住所: Av. Kim Il Sung, 922 金日成通り 922 番地)です。

ちなみに、モザンビークの通りの名前には“ホーチミン通り”など社会主義時代の名残が見受けられます。

本当かどうかは知りませんが、「第4警察署 外国人担当」には各国大使館担当者が、それなりの“援助”を行っているため、外国人犯罪被害者に対し、モザンビーク人の被害者よりは親身になって対応をしてくれるとか。

交通違反などについても法律が機能しているのやらないのやら (^_^; 交差点の信号機のランプが切れているのは当たり前。双方向ともどうやって青だと判断しているのかさっぱり分からない交差点も沢山ありますが、車はちゃんと止まっています。

交通に関しては“車優先”。

横断歩道を渡っていても、車は減速もせずに突っ込んできます。

駐車に関してもヨーロッパ風と言えばそうなのですが、駐車場がない所では、“車道”ではなく“歩道”上に車を駐車します。このため、ほとんどの歩道が歩道として機能していません。

車と言えば、駅のホームに車が入ってきたのにも驚きました。駅員さんに聞くと、モザンビークでは普通のことだそうです。



で、警察の仕事ですか？

民間人が捕まえた泥棒の逮捕以外では、横断歩道上に駐車していた車を取り締まっていました。ちゃんと仕事はしているけど、それ以上に犯罪が多いということでしょうか。

(つづく)

次回は、(6) - 洗車 - です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

ソチ冬季五輪の話題で賑わっている今日この頃ですが、2月7日に安倍首相がソチを訪れ、プーチン大統領と会談を持った事はあまり知られていない。席上、具体的な北方領土返還計画が話し合われたとあり、戦後初めてと断言している程の画期的な出来事である。ロシア側の譲歩の背景には、サハリンの天然ガスがあり、その大口顧客として日本を重要視していると報道されている。北方領土返還は、長年の国民の夢であり、これを契機に少しずつでも進展していくことを切に願う。(KT)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp